

皮膚科

小澤健太郎

当科では、国立病院機構が担うべき医療のなかでも皮膚がんを含めた皮膚腫瘍に重点を置いており、その他にも下肢静脈瘤や炎症性皮膚疾患など幅広い領域の皮膚疾患の診断と治療に取り組んでいます。

皮膚腫瘍に関して当院は、皮膚がんに対する手術療法ならびに化学療法、放射線療法などの集学的な治療を行うことが可能な施設であり、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医をはじめ優れたスタッフと恵まれた医療設備のもと、正確な診断と十分な説明、事実に裏付けられた治療をモットーに、皮膚がん患者の社会的な生活の質を第一とした診療を行っています。皮膚腫瘍の診断は容易ではないものも多いため、ダーモスコピーによる非侵襲的な検査や皮膚生検を積極的に行い、臨床検査科病理部門との合同カンファレンスを行うことで診断精度を高めています。

また、パッチテストによる金属アレルギー等の接触皮膚炎の診断と治療、難病である自己免疫性水疱症など専門性の高い診療にも対応し、難治性皮膚疾患に関しても、地域の医療施設や近隣の総合病院から専門的な診療を要する患者を積極的に受け入れています。

下肢表在静脈の弁不全によって発生する下肢静脈瘤に対する専門外来を開設し、非侵襲的な超音波ドップラー検査を用いた専門的な診療を行うとともに、保存的治療に加えて、短期入院による下肢静脈瘤用レーザー治療を含めた外科的手術を数多く経験し、良好な治療成績を残しています。

臨床研究としては悪性黒色腫に対する免疫療法や分子標的薬の有効性評価や副作用対策について臨床試験やこれらの治療に有効なバイオマーカーを探求するための医師主導臨床試験に参加しています。また、悪性黒色腫、皮膚付属器悪性腫瘍、メルケル細胞癌の疫学調査についての多施設共同研究も行っています。

教育面では当院は大学病院以外では数少ない日本皮膚科学会認定専門医主研修施設に指定されており、多様な皮膚疾患の診療を経験できる体制を整えて、皮膚科専門医育成のための医師教育にも取り組んでいます。

【2016年度 研究発表業績】

A-0

Inoue Y, Hasegawa M, Maekawa T, Le Pavoux A, Asano Y, Abe M, Ishii T, Ito T, Isei T, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ohtsuka M, Ogawa F, Kadono T, Koderu M, Kawakami T, Kawaguchi M, Kukino R, Kono T, Sakai K, Takahara M, Tanioka M, Nakanishi T, Nakamura Y, Hashimoto A, Hayashi M, Fujimoto M, Fujiwara H, Matsuo K, Madokoro N, Yamasaki O, Yoshino Y, Tachibana T, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 1: Wounds in general. J Dermatol 43(4):P357-75、2016年4月

Tachibana T, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Kadono T, Fujiwara H, Asano Y, Abe M, Ishii T, Isei T, Ito T, Inoue Y, Ohtsuka M, Ogawa F, Koderu M, Kawakami T, Kawaguchi M, Kukino R, Kono T, Sakai K, Takahara M, Tanioka M, Nakanishi T, Nakamura Y, Hashimoto A, Hasegawa M, Hayashi M, Fujimoto M,

Maekawa T, Matsuo K, Madokoro N, Yamasaki O, Yoshino Y, Le Pavoux A, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 2: Guidelines for the diagnosis and treatment for pressure ulcers. J Dermatol 43(5):P469-506、2016年5月

Isei T, Abe M, Nakanishi T, Matsuo K, Yamasaki O, Asano Y, Ishii T, Ito T, Inoue Y, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ohtsuka M, Ogawa F, Kadono T, Koderam M, Kawakami T, Kawaguchi M, Kukino R, Kono T, Sakai K, Takahara M, Tanioka M, Nakamura Y, Hashimoto A, Hasegawa M, Hayashi M, Fujimoto M, Fujiwara H, Maekawa T, Madokoro N, Yoshino Y, Le Pavoux A, Tachibana T, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 3: Guidelines for the diagnosis and treatment for diabetic ulcer/gangrene. J Dermatol 43(6):P591-619、2016年6月

Fujimoto M, Asano Y, Ishii T, Ogawa F, Kawakami T, Koderam M, Abe M, Isei T, Ito T, Inoue Y, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ohtsuka M, Kadono T, Kawaguchi M, Kukino R, Kono T, Sakai K, Takahara M, Tanioka M, Nakanishi T, Nakamura Y, Hashimoto A, Hasegawa M, Hayashi M, Fujiwara H, Maekawa T, Matsuo K, Madokoro N, Yamasaki O, Yoshino Y, Le Pavoux A, Tachibana T, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 4: Guidelines for the management of skin ulcers associated with connective tissue disease/vasculitis. J Dermatol 43(7):P729-57、2016年7月

Ito T, Kukino R, Takahara M, Tanioka M, Nakamura Y, Asano Y, Abe M, Ishii T, Isei T, Inoue Y, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ohtsuka M, Ogawa F, Kadono T, Kawakami T, Kawaguchi M, Kono T, Koderam M, Sakai K, Nakanishi T, Hashimoto A, Hasegawa M, Hayashi M, Fujimoto M, Fujiwara H, Maekawa T, Matsuo K, Madokoro N, Yamasaki O, Yoshino Y, Le Pavoux A, Tachibana T, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 5: Guidelines for the management of lower leg ulcers/varicose veins. J Dermatol 43(8):853-68、2016年8月

Yoshino Y, Ohtsuka M, Kawaguchi M, Sakai K, Hashimoto A, Hayashi M, Madokoro N, Asano Y, Abe M, Ishii T, Isei T, Ito T, Inoue Y, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ogawa F, Kadono T, Kawakami T, Kukino R, Kono T, Koderam M, Takahara M, Tanioka M, Nakanishi T, Nakamura Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Fujiwara H, Maekawa T, Matsuo K, Yamasaki O, Le Pavoux A, Tachibana T, Ihn H; Wound/Burn Guidelines Committee. : The wound/burn guidelines - 6: Guidelines for the management of burns. J Dermatol 43(9):989-1010、2016年9月

A-1

爲政大幾 : 基底細胞癌「皮膚科研修ノート」佐藤伸一、藤本学 編集、永井良三 監修、P508-510、診断と治療社、東京、2016年4月20日

A-3

爲政大幾 : 特集メラノーマ 基礎から最新薬物療法まで 手術療法 切除範囲 「CURRENT THERAPY」 34 (4)、P38-42、ライブメディコム、2016年4月1日

小林佑佳、小澤健太郎、爲政大幾 : 外陰部に生じた隆起性皮膚線維肉腫 「皮膚病診療」 39(1)、P77-80、協和企画、2017年1月

田口理映子、小澤健太郎、爲政大幾：両第 I 趾爪甲に生じた retronychia 「皮膚病診療」 39(2)、P155-158、協和企画、2017 年 2 月

B-3

爲政大幾：SLN navigation surgery その実際と今後の課題。第 32 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、鹿児島、2016 年 5 月 27 日

爲政大幾：悪性黒色腫に対する分子標的療法。日本皮膚科学会皮膚悪性腫瘍指導専門医講習会、鹿児島、2016 年 5 月 28 日

爲政大幾：悪性黒色腫の治療選択肢を考える～外科治療と抗がん剤治療の限界と可能性～。第 31 回日本皮膚外科学会総会・学術集会、沼津、2016 年 9 月 11 日

B-4

東郷さやか、小澤健太郎、爲政大幾、石津谷祐：会陰部に巨大な腫瘤を形成し肛門外括約筋への浸潤を認めた皮膚粘液癌（mucinous carcinoma of the skin）の 1 例。第 32 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、鹿児島、2016 年 5 月 27 日

田中佑佳、東郷さやか、田口理映子、小澤健太郎、爲政大幾、立石千晴、鶴田大輔：手術を契機に発症した水疱性類天疱瘡の 2 例。第 115 回日本皮膚科学会総会、京都、2016 年 6 月 3 日

小林佑佳、戸田直歩、小澤健太郎、爲政大幾：治療に難渋した右下腿のうっ滞性皮膚潰瘍の 1 例。第 31 回日本皮膚外科学会総会・学術大会、沼津、2016 年 9 月 10 日

小林佑佳、爲政大幾：左上口唇基底細胞癌に対して cross lip flap（Abbe 法）による再建を行った 1 例。第 35 回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会、台北、2017 年 1 月 20 日

B-5

小澤健太郎：HIV 感染症の皮膚症状。第 455 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2016 年 5 月 21 日

B-6

小林佑佳、小澤健太郎、爲政大幾：右下腿に生じた悪性末梢神経鞘腫瘍の 1 例。第 455 回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2016 年 5 月 21 日

東郷さやか、小澤健太郎、爲政大幾、川崎紀彦：術前化学放射線療法後に手術を行った左鼠径部有棘細胞癌の 1 例。第 109 回近畿皮膚科集談会、神戸、2016 年 7 月 10 日

小林佑佳、小澤健太郎、爲政大幾、米澤陽子：ニボルマブ開始 1 年 3 ヶ月後に間質性肺炎を発症した 1 例。第 67 回日本皮膚科学会中部支部学術大会、大阪、2016 年 10 月 22 日

藤森なぎさ、小林佑佳、加賀野井朱里、小澤健太郎、爲政大幾：フロモックスによる多発性

固定薬疹の1例。第460回日本皮膚科学会大阪地方会、和歌山、2017年3月11日

B-8

爲政大幾：粉瘤の治療を考える。第44回横浜西部皮膚科臨床研究会、横浜、2016年4月2日

小澤健太郎：おしりの皮膚疾患。第10回肛門疾患 Set Up セミナー、大阪、2016年4月2日

小澤健太郎：関連疾患のご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚疾患フォーラム、大阪、2016年6月16日

爲政大幾：進行期悪性黒色腫の集学的治療。メラノーマ最新治療戦略セミナー in 松山、松山、2016年6月22日

爲政大幾：メラノーマ治療薬のエビデンスと最新の話。メラノーマ治療戦略セミナー、大阪、2016年7月2日

爲政大幾：悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の効果と副作用マネジメント。奈良県がん免疫療法研究会、奈良、2016年7月16日

小澤健太郎：ご紹介患者さんの経過報告。大阪中央皮膚 Joint Meetig 2016、大阪、2016年11月17日

小林佑佳、小澤健太郎、爲政大幾：右尾翼部に生じた限局性結節性アミロイドーシスの1例。第219回大阪皮膚科症例検討会、大阪、2016年11月24日